

平成 27 年度 決算等審査特別委員会（第 1 分科会）9 月 29 日

佐々木心 委員

平成 27 年度一般会計、特別会計、歳出、第 4 款第 2 項、障害保険福祉費の障害福祉センター運営管理 6700 万円余と、障害者スポーツ振興 4800 万円余について、順次伺います。

まずは、障害者福祉センター運営管理についてであります。

現在の仙台市内の障害者福祉センターは、青葉区以外の各 4 区にございます。そこで伺うのは、未設置地区である青葉区の建設予定の（仮称）青葉障害者福祉センターについてであります。本市各区にある障害者福祉センターは、障害者の自立支援の援助や社会適応訓練、各種障害者相談事業、そして障害者のサロン活動の場所として役割を果たしています。また、障害者福祉センターは東日本大震災の際に、災害時の福祉避難所としても多大なる効果を発揮したと認識します。そして平成 27 年度で震災復興計画が 5 年を過ぎ、その間の大型の公共施設の建設を見送っていましたが、これから新たなまちをつくる観点から、再度、建設計画が進むことを期待します。

そこで、現在確認しておきたい数点について伺います。

まずは、障害者福祉センターの役割をどのように認識しているのか、局長に伺います。

健康福祉局長

障害者福祉センターは、障害のある方々からの各種相談支援でございますとか、生活介護などに対応するとともに、社会参加や障害理解、差別の解消などの働きかけを行う、地域における障害者福祉の拠点施設と位置づけております。また委員がおっしゃられたように、災害時には医療的ケアが必要な障害者など、指定避難所での生活が困難な被災者を受け入れる福祉避難所としての機能など、障害者の総合的な福祉の増進を図る役割を担っているものと認識してございます。

佐々木心 委員

今後の建設予定について、どのようになっているのかお示してください。

障害者支援課長

（仮称）青葉障害者福祉センターについてでございますが、平成 28 年度から平成 30 年度を計画期間とする仙台市の実施計画に位置づけまして、計画的に進めてまいります。今年度は旭ヶ丘地区での整備に向けた調査検討といたしまして、前回調査からの経年による変化と東日本大震災の影響などの最新の状況を確認するための調査を市民局とともに実施しておりまして、この調査は 8 月から調査に着手し、10 月末に現地調査が終了する予定となっております。

佐々木心 委員

10 月末に調査が完了ということでございます。順調にいけばいつ完成予定なのかをお伺いいたします。

障害者支援課長

青葉障害者福祉センターの完成時期でございますが、実施計画で予定しておりますのは来年度から基本設計、翌年度実施設計、工事ということで進んでまいることになってございます。

佐々木心 委員

(仮称) 青葉障害者福祉センターは、市民センターとの合築となるというふうにも伺っております。本年度4月に施行された、仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例を生かし、市民局との連携も含め、共生社会のもと地域住民のニーズと障害者のニーズが合致するよう、幅広く現在の意見をお聞きする必要があると考えますが、そのことについてはどのように考えるかお伺いいたします。

障害者支援課長

既存の事業や災害時の福祉避難所としての役割に加えまして、機能の拡充が求められているものと認識をしております。機能面の検討を進めるに当たりましては、利用者のニーズを把握するとともに市民局とも連携しながら、地域住民の方を含めまして関係者から幅広く御意見を伺うように努めてまいります。

佐々木心 委員

きょうは市民局がないのが残念なんですけれども、市民局との連携も含め、しっかり取り組んでいただければと思います。先ほど順調にいけばいつでもできるかということをお伺いしたのですが、逆に今調査しているところ、10月末にやっぱりこの場所はだめだとなってしまったとき、代替地とか候補地があるのかをお伺いいたします。

障害者支援課長

現在、調査中でございますので、その調査結果を踏まえまして対応してまいりたいと存じます。

佐々木心 委員

そのとおりなんです。調査中なので、それがだめだったら仮にどうですかということで、あるかないかだけ伺っておきたいということで御答弁をお願いいたします。

障害者支援課長

まずは調査をやっているということでございますので、代替地については現時点で検討してございません。

佐々木心 委員

ないということなんですけれども、調査が何でもないことを祈るばかりであります。東京のあの豊洲のようにならないことをくれぐれも注意して言っておきたいと思います。次に、既存の障害者福祉センターの警備について伺います。相模原の障害者施設を襲った痛ましい事件については、お亡くなりになられた方へ心からお悔やみを申し上げるのと、けがをされた方、今なお精神的な心のケアを含め、いち早い回復を祈るばかりであります。相模原の施設は、入所施設で起こってしまいました。障害者福祉センターのように通所施設でも起きてしまう可能性もあります。本市では指定事業者に運営管理を委託していますが、文書等で注意喚起を図っているとはお聞きしましたが、警備体制はどのようになっているのかを伺います。

障害者支援課長

障害者福祉センターの警備体制でございますが、警備会社への委託によるいわゆる機械警備を行っております。また、職員が1日複数回、施設内を巡回したり、使用していない居室は施錠するなど、館内の見回りの強化の取り組みを行っております。

佐々木心 委員

館内の見回りをされているということでございました。

この件は、実は変更する前の健康福祉常任委員会でもお聞きしました。繰り返し質問をさせていただくほど重要な案件ゆえに改めて伺います。また、必要以上に警備、防犯を強化することで、地域とともに交流してきた障害者施設が疎遠になったり、閉塞してしまう懸念もございます。施設の方々からもそういった声をお聞きしますが、そのことを踏まえて局長の思いと認識、当時、私がお伺いしたときには局長の熱いそして見識の高い意見に本当にひとまず安堵していたところがございます。あのときの思い等も含めて、もう一度御答弁をいただければと思います。

健康福祉局長

相模原市の障害者施設におけます痛ましい事件から約2カ月が経過したところでございますが、御遺族、施設利用者、御家族の皆様の癒やされることのない悲しみ、不安、無念の思いはこの2カ月間、一度も途切れることはなかっただろうと思ひまして、一日も早い心の回復をお祈りするところでございます。

事件後の報道では、障害のある方の命や尊厳を否定する容疑者の供述が伝えられておりますけれども、一人一人の命は障害の有無にかかわらず皆ひとしく大切に存じます。本市としましては障害者や障害に対する差別、偏見をなくし、障害理解の浸透に向けた取り組みを一層推進してまいりたいと考えているところでございます。

また、委員からお話がありましたように、この事件を契機に施設における防犯体制の強化が求められておりますが、その一方で各施設ともこれまで積極的に地域の皆様とのさまざまな交流にも取り組み、地域に開かれた運営を行ってまいりました。今後の防犯体制づくりに当たりましては、こうした施設と地域との関係を損なうことがないよう、また利用者や施設職員に閉塞感を生じさせないよう、私どもといたしましては各施設と協議を重ねながら進めてまいりたいと存じます。

佐々木心 委員

本当に局長がおっしゃったとおりでございます。太白区障害者福祉センターは長町南コミュニティ・センターと併設しておりまして、昨日もふれあい祭りが行われて、本当に長い歴史の中で地域と障害者施設がともに過ごしてきたんだなというところも認識をして確認をしてまいりました。余りにも警備を強くすることによって閉塞感が生まれないように注意していただければというふうに思います。障害者福祉センターについては以上とさせていただきます。

次に、障害者スポーツ振興について伺います。

過日、開催された2016年リオパラリンピックには、仙台市から車椅子バスケットボール選手3名と、ウィルチェアーラグビー1名の選手、男子柔道の監督が出場及び指揮をいたしました。車椅子バスケットは9位に終わりましたが、車椅子バスケットの藤本怜央選手はチームのキャプテンであり、また日本選手団全体のキャプテンを務めていたことも大変すばらしく、名誉な大役の任を果たしていただきました。

また、ウィルチェアーラグビー日本代表の庄子選手が銅メダルを獲得し、本市に明るい話題を提供していただきました。庄子選手には今週末、勾当台公園で行われる福祉まつりウェルフェア2016のオープニングステージにおいて、奥山市長より直接、賛辞の盾を贈呈するとお聞きしており、非常に喜ばしいことと思ひます。

しかしながら大会が終わり、その熱も一過性のものになってしまっていくのが現状であります。障害者スポーツの各種目は、練習場所の確保や運営予算が厳しいとお聞きしています。そこで、障害者スポーツを継続してアピールしていくことと、2020年東京パラリンピックにつなげるためにも、我々議員と行政の力が必要と感じております。

そこでまず伺うのは、平成27年度の障害者スポーツ振興4800万円余の内訳をお聞きいたします。

障害企画課長

障害者スポーツ振興に係る平成27年度決算の内訳は、障害者スポーツ大会の宮城県仙台市大会を開催するための経費が348万円余、全国障害者スポーツ大会選手団派遣や選手強化等に係る経費が1208万円余、障害者スポーツ教室等の開催に係る経費が84万円余、各種大会への選手派遣や仙台で行われる大会への補助に係る経費が141万円余、障害者スポーツ協会の運営等に係る経費が約1507万円、障害者温水プールの運営補助金が1550万円でございます。

佐々木心委員

障害者スポーツ大会等の補助金141万円余というふうに御答弁いただいたのですが、各種大会の数と派遣の補助件数がどのようにになっているのかをお伺いいたします。

障害企画課長

仙台市内等で開催されます宮城県大会以上の大会への補助の平成27年度の実績は52万2000円で、東北身体障害者選手権水泳競技会大会など4大会に対して補助を行いました。

仙台市外で開催されます東北大会や全国大会への派遣に関する補助の平成27年度実績は89万4000円で、京都市で行われました全国車椅子駅伝競走大会など四つの大会、並びに全国障害者スポーツ大会北海道・東北ブロック予選大会として、福島市で行われた車椅子バスケットボール競技、花巻市で行われた知的障害者のフットベースボール競技など五つの大会、合わせて九つの大会への選手の派遣に対して補助を行いました。

佐々木心委員

仙台市内で行われたのが4大会、あとはそれ以外のところで9回ということで行われておりました。本当に多種多様の種目があって補助をされているということを確認しました。事前にいろいろ伺っていたのですけれども、もともと事前申請なので補助を断るケースということも全くないというふうに聞いておりました。各種団体については事前に早目に仙台市に要望を出すようにして、都度断ることのないように御対応をよろしくお願ひしたいと思います。

最後になりますが、障害者スポーツ団体からは競技スポーツの充実も大事であり、普及を第一で考えるか、また一方で強化を考えるかを重視する声をよく耳にします。私見ではありますが、私は本市の取り組みとして障害者スポーツの拡充という意味でも、少なくとも次の2020年東京パラリンピックに向けては普及の費用も強化の費用も両立でサポートしていくことを御提案いたしますが、当局の御認識はいかがでしょうか。

障害企画課長

障害者スポーツは、障害のある方の社会参加を促進するとともに、障害や障害者への関心を高めるまたない機会であり、これまでも初めての方も参加できる障害者スポーツ教室や、障害のある方もない方も障害者スポーツを体験できるウェルフェアスポーツというイベントを開催するほか、全国大会出場選手を対象にした種目ごとの強化練習会を実施してまいりました。東京パラリンピックに関する情報収集も行いながら、障害者スポーツ団体など関係者の皆様と連携を図り、障害者スポーツの普及や強化の取り組みを一層推進してまいります。

佐々木心委員

ぜひ強化の推進に取り組んでいただければと思います。私自身も微力ながら、各団体を支えながら4年後の大会には仙台市から選手が出て、メダルを獲得することを期待して私の質問にかえさせていただきます。